

2013 / 春 / No.91

らじ
来ぶらり



特集

新入生諸君！ オススメの本は これだ！

館長コラム

自分のコトバで考えるということ

図書館長 平野 浩

自分のコトバで考える、と言われたことがありませんか。大学に入学すると、そんなようなことを言われる機会もさらに増えるでしょう。しかし、そもそも自分のコトバで考えるとはどのようなことなのでしょうか。私たちはしばしば、借り物でない自分のコトバで考えるということ、人のコトバに左右されずに考えること、そこから更に、人のコトバを聞かずに考えることだと思ってしまう。大いなる勘違いです。大抵のことは、すでに誰かがどこかで言っています。そうした誰かがどこかで言ったことをイヤというほど聞いたうえで、「それでも何かまだ言われ足りてないものがある」というもどかしさを感じた時、それが何であるのかを探ること、これが自分のコトバで考えるということです。どのような分野でも、独創的な仕事をした人たちの多くが、最初は誰かがどこかで言ったことを徹底的に聞くことから始めています。それによって、その分野の宇宙がどのようにになっているかのイメージを持ち、その中のどこに「言われ足りていない」空白地帯や「言われ過ぎて意味不明になった」ブラックホールがあるかを感じ取るのです。宇宙の入り口、図書館によろこそ。



表彰!!

図書館男子! 図書館女子!

ISSN 2186-6724

学部1年生のときから図書館をよく利用しているヘビーユーザーのお二人を「図書館男子」「図書館女子」として勝手に認定させていただきました!

日本語日本文学専攻
博士前期2年の
院生さん!

Q. 来館頻度は?

週4回程度です。院生室と併用しています。図書館では主に2階で研究(課題や論文執筆)を、1階では教員採用に向けて日本史関係の知識を補充しておきたいのでその勉強をしたり、気晴らしに本を読んだりなどしています。学部生の頃は3階のパソコンもよく利用しましたが、院生室のパソコンを主に利用するようになったことで最近はおもっぱら1、2階を使用することが多いです。

Q. おすすめの図書館の使い方は? お気に入りの場所は?

やはり2階の雑誌室ですね。「歴史学研究」や「史学雑誌」といった学術雑誌をよく読みます。リラックスした雰囲気をとても気に入っています。

Q. お気に入りの本は?

う〜ん…以前史学科教授をされていた井上勲先生の『王政復古(中公新書)』ですね。履修していた授業の参考文献として挙げられていました。歴史書は出来事を時系列に並べて一面的に述べられていることが多いのですが、この本は様々な要素を生きたものと捉えて王政復古を説明している点で、大学の研究とはこういうものなんだと感銘を与えてくれました。今でも研究に行き詰った時はこの本を紐解き、参考にしています。

史学専攻
博士前期2年の
深沢さん!

Q. 来館頻度は?

週3-4回程度です。多いときは毎日来館しています。学科研究室と比べてコピー機があってコピーしやすいというのと、調べたいときにデータベース専用検索パソコンですぐ調べられるので大学図書館で研究を進めることが多いですね。

Q. おすすめの図書館の使い方は? お気に入りの場所は?

1年生の頃は1階のベストセラーや話題の本をよく借りていました。そのうちに一般教養の授業をきっかけにして、一般書・専門書を読むようになりました。普段は、主に2階の長机を使っています。開放感があって勉強しやすいからです。集中したいときはパーテーションで仕切られている机を使います。

Q. お気に入りの本は?

最近ですと『舟を編む』、それから『しゃげけ』シリーズも好きで読んでいます。少し専門書寄りになりますが、史学科の福井先生の授業で指定されていた教科書『歴史学入門(岩波書店)』や日文科の鈴木先生の授業で使用していた『古典詩歌入門(岩波書店)』は、読んだときに、「高校と違う!」という驚きとともに、「これが大学の世界なんだ」とこれからの学びに対する期待がふくらみました。この本がきっかけで現在の研究テーマを選んだと言えるかもしれません。



お二人、ご協力どうもありがとうございました。

後悔先に立たず。学べるときに思いきり学ぼう。



人に自分の本棚を見せる機会、意外とないですよね。ちょっと恥ずかしいけれど自慢したい、わたしの本棚。今回は、法学部法学科教授の大久保直樹先生にご自身の本棚を紹介いただきました。

ゼミの卒業生などと会って喋っていると、「学生時代に勉強しておけばよかった。」と言う発言を結構よく聞きます。世間一般には、学生時代にしか本当の勉強はできないと言われるのですが、そういう発言を聞いたときに私は、必ず「今からでも遅くないじゃないですか」と発破をかけるようにしています。この発破は、実は自分自身にかけている言葉でもあります。

わたくしは、弓術部法学科卒業と揶揄されるような学生生活を送っていました。色々なご縁があって研究者の道に進めましたが、研究生生活をはじめてしばらくして思ったのは「学生時代にもっと色々な勉強をしておけばよかった。」ということでした。研究者の私には、普通の社会人に比べればはるかに時間的ゆとりがありますが、それでも、未知の分野について分からないことが分かるようになるまで取り組むのは非常に難しいです。とは思いつつ、諦めずに、なるべく他の分野のことも学ぼうと苦闘している足跡が、私の書棚に並んでいる本というところになるかと思えます。

今現在学生である皆さんは、私のような後悔の程度がすこしでも少なくともすむように、学習院大学の図書館(各学部にも図書室があります)を最大限に活用してください。



専門分野外の
ジャンルの本も
多く並んで
います

例えば
こんな本も
読みます

法学部法学科教授
大久保直樹

来ぶらり No.91 2013年4月1日

学習院大学図書館 発行責任者: 平野 浩 編集委員: 瀬戸山★アントニオ★雄介・内藤☆クリスティーン☆沙織☆三
1階貸出・返却カウンター: ☎ 03-5992-1009 内線 2397 2階レファレンスカウンター: ☎ 03-5992-9249(直通) 内線2395・2396
☎ 03-3986-0221(代表) 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

「来ぶらり」のバックナンバーは (<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/library/raiburari.html>) で公開しています。